

歴史・文化サイトカード

通しNo.	1-A-10		更新日	2025/2/20
サイト名	やくし ようらい 平安期赤浦海岸から引き上げた薬師如来がご本尊～一畑寺 いちばたじ			
基本情報	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 有形 <input type="checkbox"/> 無形 <input type="checkbox"/> その他		
	所在地	出雲市出雲市小境町		
	指定別			
	種別			
	指定／登録年月日			
	管理団体／モニタリング	一畑寺(一畑薬師)		
	周辺施設／アクセス	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> 売店 <input checked="" type="checkbox"/> 飲食店 <input checked="" type="checkbox"/> 駐車場(乗用車200台 バス20台)		
サイトの解説	歴史・文化	一畑薬師は島根半島の中心部、標高300メートルの一畑山上にある。「目のお薬師さま」として、古くから全国的に知られ、1,300段余りの石段(参道)でも有名である。宗派は禪宗の臨済宗妙心寺派。創開は、平安時代894(寛平6)年、もともと医王寺と称し天台宗であったが、正中年間1325年に成得寺と改称し臨済宗となり、さらに1653(応永2)年に一畑寺と改称した。 一畑山の麓、日本海の赤浦海中から漁師の与市が引き上げた薬師如来をご本尊としておまつりしたのが始まりで、与市の母親の目が開いたことから「目のやくし」として、諸願に靈験あらたかなお薬師様として篤く信仰されて来た。尼子、毛利、京極、堀尾、松平と代々この地の大名から寺領を受け、加護も賜った。ゆかりの品々も多く、寺宝として今日に伝えられている。全国から年間70万余人の参拝があり、日々のご祈念、例月祭、座禅会、団体研修、茶会、奉納音楽祭など年間を通してさまざまな行事がある。		
	地形・地質、生物・生態等	十六島(うつぶるい)から佐陀川にかけての丘陵山地は、島根半島部で最も顕著な地殻変動の跡が残っている場所であり、日本海拡大期の泥岩層が流紋岩の溶岩や火山碎屑岩を伴って褶曲(しゅうきょく)している。一畑薬師は西の焼山(やけやま)から続く流紋岩の噴出岩と東の泥岩主体の地層が分布する境界付近の山腹にある。参詣のための長い階段は、高低差150mもある泥岩の中に設けられており、その一定した勾配(およそ30度)にはこのような地質条件が反映されている。 また、一畑寺周辺の森林は、原生的な森林が残り、地域の景観を代表する森林として、特定植物群落「一畑寺照葉樹林」に指定されている。		
写真・図等				
参考文献				